曲

陽春駘蕩 紫淡く 霞っからさきあは かすみ 乾坤んこん に 0 回り来る おぼろよひ 一罩め 7

若ゥ 葉ば 自じ 治5 の流が の陰を浮べつつ れは永遠に

゙が幸を祝ふらん

幾く

代かけて変らざれ 凋まぬ松柏と しょうはく

世ょ 栄が 目ざす真理の高殿は 0 0) 秋風 がれたた 0) 夢ゅ Fの 仮枕 かりまくら に € 半にて 驚さる かん

世の濁江

に巣を造る

にがら

へる

馬ば

北風

に

嘶なな

川<sup>な</sup>流れ 紫原の を掬す を出 可でて霜 び薪樵 を踏 る

陣んうん

くらき八街

は

ウラ

ル Ŧ.

0

彼方風凄い

く

鉄騎百万駆りつつてのきひゃくまんかけ

崇き希望 歓喜憂苦を共にせし 主の若人が み

燃<sup>も</sup>ゆ 正義の光失する時 て自治寮の健男児 る義憤を胸に秘

め

見み吾等起た 和か由等 7虎き や獅し 0 0 楯を 旗はた 0 一子王一吼, をを接い振い の影が ベ 、 き 時<sup>き</sup> 語列ね 省な ĥ 関かざ は来き Ü Ť ぬ

の駒に鞭打ちて し突進めい نخ

遠く遙け

き感慨のなからめや

嘉<sup>セ</sup>の

のおきふしに

0

声を 春る

の勇ましき

この記念祭